

発掘技術者研修「保存科学課程」

5月22日より6月6日の16日間にわたり、保存科学課程の研修をおこないました。参加者は、青森県から鹿児島県まで総勢13名です。保存処理の担当に抜擢された方、日頃の発掘調査業務に保存科学の知識を生かしたい方、保存科学全般について概略を学びたい方など、参加の動機は様々です。

研修内容は、保存科学の基礎から実際の材質・構造調査、保存処理、保管環境、現場における応急処置を含むフィールドワークです。この現地実習は平城宮跡発掘調査部の協力を得て、興福寺中金堂の発掘調査現場においておこなうことができました。また、保存科学における写真記録の重要性を理解して



発掘現場での実習風景

もらうために、写真室の協力を得て、写真撮影実習も併せておこないました。

2週間という限られた短い期間の中では、取り扱う内容が多岐にわたることから、スケジュール的にもかなりハードな面があります。しかし、保存科学についての講義・実習を一通り体験することで、発掘現場での応急処置や遺物の取り上げ方、保存処理の概要について理解が深まり、基本的な技術の習得がなされたものと思われます。研修生からは、発掘調査における保存科学の果たす役割や保存処理の重要性に対して認識が新たになった、これまで手を出せないういた遺物の保存処理を自前でおこなう、あるいは自前でできなくても外注する際の留意点を整理し、仕様書を作成することに大きな一歩を踏み出

せたとの声が聞かれました。本研修は一応の成果をあげることができたものと思われます。

研修終了後、各々の任地に戻った研修生からは、遺物・遺構の保存について、それぞれが抱える問題に関する問い合わせを受けたりしています。また、研修生間の情報交換も頻繁におこなわれているようです。研修生が、それぞれ自分のできることから動き出している状況を見て、本研修を担当した者としての安堵と喜びを感じている次第です。

(埋蔵文化財センター)